

一宮市都市計画に関する基本的な方針(一宮市都市計画マスタープラン) - 概要版 -

序章 都市計画マスタープランについて

【都市計画マスタープランとは】

都市計画法第18条の2に規定される『市町村の都市計画に関する基本的な方針』であり、住民に最も近い立場である市町村が、住民の意見を反映しながら策定するものです。

【改定の背景】

我が国では2015年(H27)の国勢調査結果で初めて総人口が減少に転じており、今後のまちづくりは、人口減少やそれに伴う少子高齢化の進行に対応することが求められています。

本市においては、2009年(H21)6月に策定した現行の都市計画マスタープランの目標年次が2020年(R2)であり、その目標年次に近づいてきています。また、「第7次一宮市総合計画」が2018年(H30)4月に策定され、「尾張都市計画区域マスタープラン」が2019年(H31)3月に改定されました。

このような背景を踏まえ、都市計画マスタープランの改定を行うものです。

【計画の対象区域と目標年次】

対象範囲：一宮市全域
目標年次：2030年(R12)

【計画の位置付け】

市	●第7次一宮市総合計画 ●一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略
県	●尾張都市計画区域マスタープラン

即ち

一宮市都市計画マスタープラン
調和 一宮市立地適正化計画

連携・整合

主な関連計画

- 一宮市公共施設等総合管理計画
- 第2次一宮市公共交通計画
- 第2次一宮市環境基本計画
- 一宮市総合治水計画
- 一宮市地域防災計画
- …など

第1章 都市の現況と課題

【都市の成り立ち】

- 尾張国一の宮の門前町・街道の宿場町が起源であるほか、萩原、起、黒田など街道宿場町、木曾川河川水運の拠点が現在も地域拠点として残っています。

- 本市の中心地区は平安時代、尾張国一の宮・真清田神社の門前町として栄えました。

- 木曾川河畔の扇状地の平地に広がる微地形の起伏に由来する小規模分散型の集落が、現在もなお広範に人口が分散して居住する市街地形成につながっています。

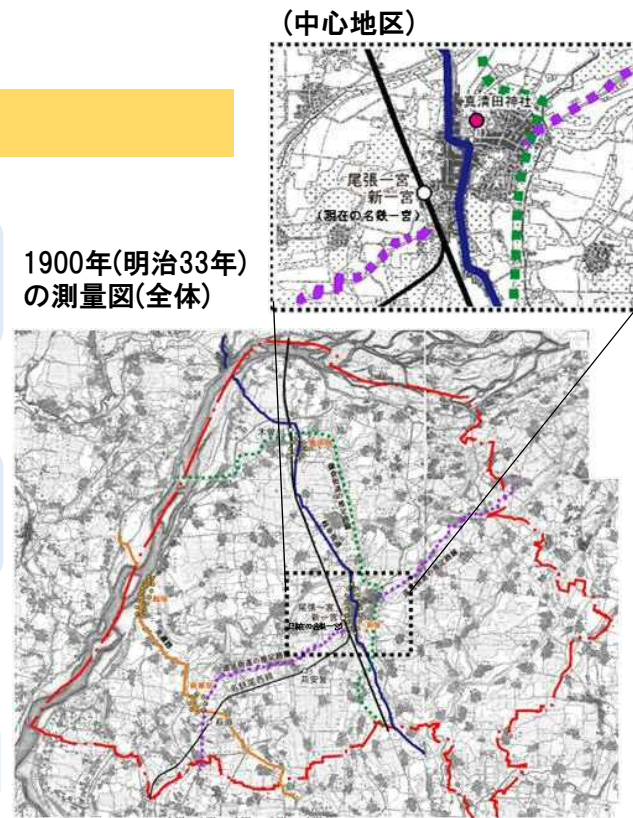
- 1900年(明治33年)の測量図には、地域の拠点である真清田神社門前町とともに、市内随所に数多くの小規模な集落が分布しています。

- 代表的地場産業である繊維産業の動向が、市街地形成と現在の土地利用にも影響しています。

- 昭和40～50年代を境に、繊維産業の国際競争力低下とともに、産業構造の変化、大規模工場跡地における土地利用転換が進むなど、都市形成に大きな影響を与えました。

【合併の経緯】

- 1921年(T10)に市制施行し、1940年(S15)・1955年(S30)と2度の近隣町村との合併を経て市域を拡大したのち、2005年(H17)に一宮市、尾西市、木曾川町が合併しました。



市町村合併年月日	
S15.8.1	葉栗郡葉栗村
S15.9.20	丹羽郡西成村
S30.1.1	丹羽郡丹陽村、葉栗郡浅井町
S30.4.1	中島郡大和町、今伊勢町(開明地区を除く)・奥町・萩原町、葉栗郡北方村
S30.4.7	丹羽郡千秋村
H17.4.1	尾西市、葉栗郡木曾川町

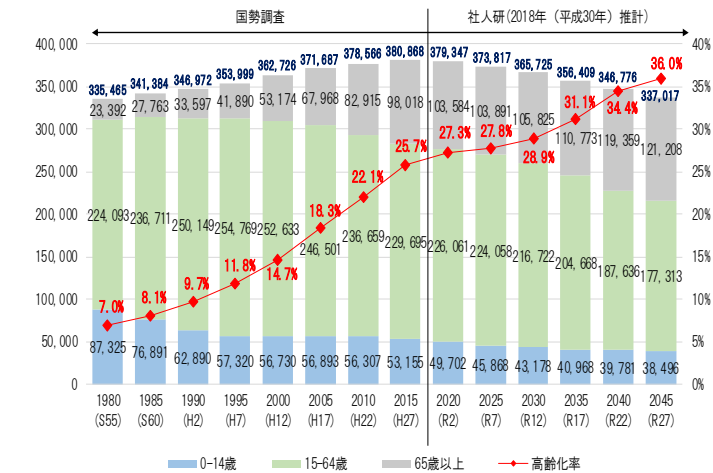
【現況と課題の整理】

課題①

人口の集約による地域コミュニティの維持

- 今後総人口は減少傾向に転じる見込みです。
- 人口減少により、空き家や空き地などの増加に伴う都市のスポンジ化が予測されます。

人口推移と将来人口推計



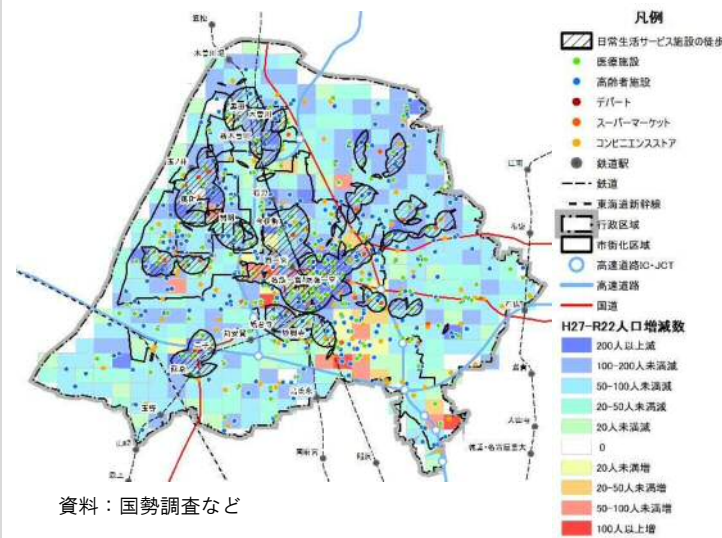
資料：国勢調査、「日本の地域別将来推計人口(2018年(平成30年)推計)」
国立社会保障・人口問題研究所

課題②

人口減少下における生活サービス施設の維持

- 将来的な人口密度の低下により日常生活サービス施設の維持が困難になることから、市民の生活利便性の低下が懸念されます。

将来的な人口増減(2015年(H27)⇒2040年(R22))と現在の日常生活サービス施設の徒歩圏



資料：国勢調査など

課題③ 中心市街地の活性化

- 一宮駅周辺などで従業者の減少数が大きく(H18→H26)、商業・業務機能の空洞化が進行しています。

課題④ 産業構造の変化への対応

- 基幹産業である繊維工業の製造品出荷額などが減少傾向となっている一方、食料品製造業は増加傾向で推移しています。

課題⑤ 災害などに対する安全・安心の確保

- 地震における液状化危険度が広範囲で極めて高い予想となっています。
- 木曾川をはじめ、日光川、新川も含め広い範囲で浸水の恐れがあります。

課題⑥ 豊かな自然や農地、公園・緑地の保全・活用

- 木曾川をはじめとした水辺、農地や社寺林などの自然豊かな地域です。
- 138タワーパークや多加木緑道など、水や緑に親しめる公園・緑地が多数あります。

木曾川



138タワーパーク



課題⑦ 環境負荷の少ない都市構造の形成

- 交通手段別分担率は、1971年(S46)以降「自動車」の割合が次第に増加しています。

課題⑧ 地域の歴史と文化の保全・活用

- 真清田神社、妙興寺などの歴史的建造物のほか、神社、仏閣が数多く分布するなど歴史的な景観の面影が残されています。

課題⑨ 多様なまちづくり活動の担い手育成

- 木曾川、繊維産業などの地域資源を活かした活動が数多く展開され、市民や地域の企業が協働しているものも見られます。

ミズベリング138



Re-TAIL



一宮市都市計画に関する基本的な方針(一宮市都市計画マスタープラン) - 概要版 -

第2章 都市づくりの方針

【将来都市像】

都会の利便性と田舎の豊かさが織りなす、だれもが住みよいまち
～多拠点ネットワーク型都市の構築～

【都市づくりの目標】

- 目標1 「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」
- 目標2 「都市機能の集積による拠点の強化」
- 目標3 「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」
- 目標4 「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」

【計画フレーム】

将来人口については、第7次一宮市総合計画と整合を図り、2030年(令和12年)の総人口を376,574人と設定します。

【将来都市構造】

■拠点

都市拠点	一宮駅周辺
副次的都市拠点	尾西庁舎周辺、木曾川駅周辺
地域生活拠点	出張所または公民館周辺
産業拠点	既存工業団地や高速道路インターチェンジなどの既存ストックを活用できる場所
レクリエーション拠点	大規模公園緑地など
歴史文化拠点	真清田神社などの本市の歴史性を象徴する地区

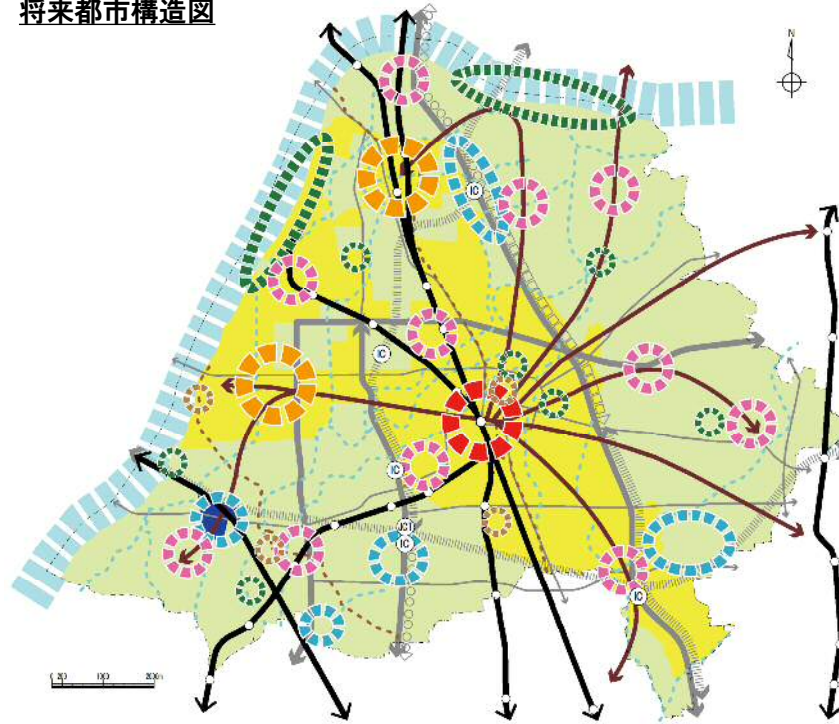
■ネットワーク

道路ネットワーク	産業振興や周辺都市、市内拠点間の交流促進に資する道路網を形成
公共交通ネットワーク	公共交通による拠点間の連携強化を推進
水と緑のネットワーク	木曾川、公園・緑地、社寺林などを結ぶ良好な自然環境を有するネットワークの形成
都市と歴史のネットワーク	岐阜街道、美濃路を位置づけ、歴史的な面影が残されたネットワークの形成

■ゾーン

都市居住ゾーン	市街化区域のうち工業専用地域を除いた区域とし、利便性が高く良好な居住環境を形成
田園環境共生ゾーン	市街化調整区域とし、自然や農地の維持・保全や地域コミュニティを維持・増進
工業集積ゾーン	工業専用地域とし、生産力拡大に向けた良好な操業環境の形成

将来都市構造図



<ゾーン>	<拠点>	<ネットワーク>
都市居住ゾーン	都市拠点	広域幹線道路
田園環境共生ゾーン	副次的都市拠点	市街化調整区域
工業集積ゾーン	地域生活拠点	計画道路
	産業拠点	幹線道路
	レクリエーション拠点	公共交通
	歴史文化拠点	鉄道
		主要バス
		水と緑のネットワーク
		都市と歴史のネットワーク

【部門別の方針】

(1)土地利用の方針

- 尾張地域の中核都市にふさわしい都市拠点として、都市機能の集積を図るとともに、まちなか居住を推進します。
- 副次的都市拠点、地域生活拠点では、それぞれの規模に応じた都市機能の集積を図ります。
- 用途混在(住工など)については、適切な都市計画の見直しなどを図ります。
- 準工業地域における新たな大規模集客施設などの立地抑制を図ります。
- 市街化調整区域は、市街化の抑制と農用地保全を基本としつつ、利便性の高い地区に限定し、居住や産業の立地誘導を図ります。

(2)都市施設の方針

①道路

- 尾張地域全体の産業振興や都市間の円滑な交通処理に資する道路ネットワークの形成を図ります。
- 道路における自転車及び歩行者の安全で快適な通行空間の確保を図ります。
- 災害に強い道路ネットワークの形成及び道路空間の確保を図ります。
- 道路の機能維持の強化を図ります。

②公共交通

- 地域・交通事業者・市が連携・協働し、利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークの形成を図ります。

③公園緑地

- 水と緑のネットワークの形成を図ります。
- これからの本市の活力と個性を支える公園のあり方を検討し、適切な配置に努めます。

(3)市街地開発事業の方針

- 一宮駅周辺地域において、民間活力の導入を促すなど、効果的な市街地整備を検討します。
- 計画的な市街地形成が必要な地区においては、土地区画整理事業の活用により、良好な居住環境の形成を図ります。
- 土地区画整理事業による面的整備が困難な場合は、地区計画制度の活用など、柔軟な整備手法を検討します。

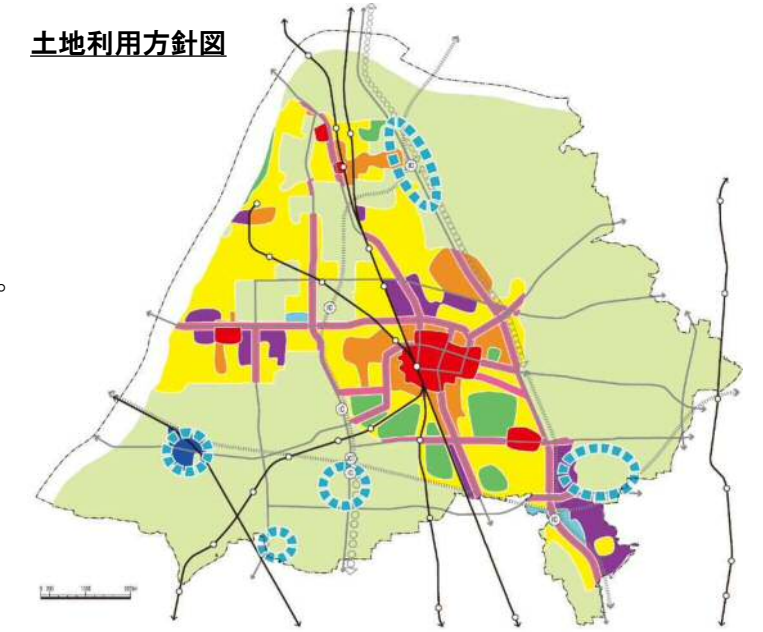
(4)景観形成の方針

- 市民・事業者・行政が協働して良好な景観の保全及び形成を図ります。
- 景観法に基づく景観計画の策定を検討します。

(6)都市防災の方針

- 自然災害の被害を最小限に抑え、被害の迅速な回復を図る「減災」の考えを防災の基本とし、災害が起きても速やかな復旧・復興が可能な、強くしなやかな都市の形成を図ります。

土地利用方針図



<土地利用の方針>	<ネットワーク>
専用住宅地	広域幹線道路
住宅地	市街化調整区域
住商混在合地	計画道路
住工業合地	幹線道路
商業集積地	公共交通
沿道複合地	鉄道
準工業地	主要バス
工業地	水と緑のネットワーク
農用地・農用地	都市と歴史のネットワーク
産業拠点	

④下水道及び河川

- 河川・水路・下水道(雨水)の整備や雨水流出抑制施設の整備を推進するなど、総合的な治水対策を行います。
- 汚水処理施設の整備及び適切な維持更新を図ります。
- 木曾川をはじめとした河川空間について質の向上や多面的な活用の推進を図ります。

⑤その他都市施設

- 駐車場機能の確保のため、将来需要を考慮した維持更新の推進を図ります。
- 既存の供給処理施設の機能維持を図ります。

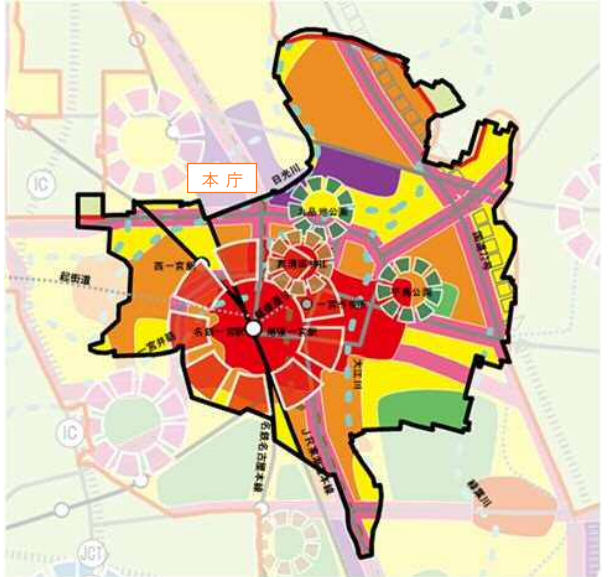
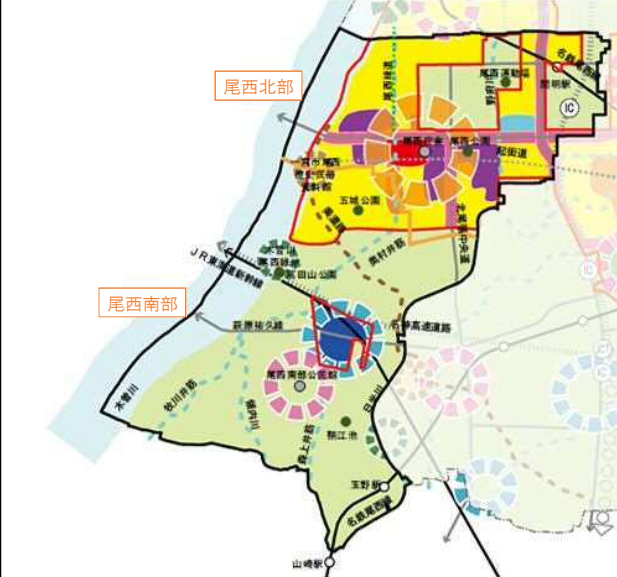
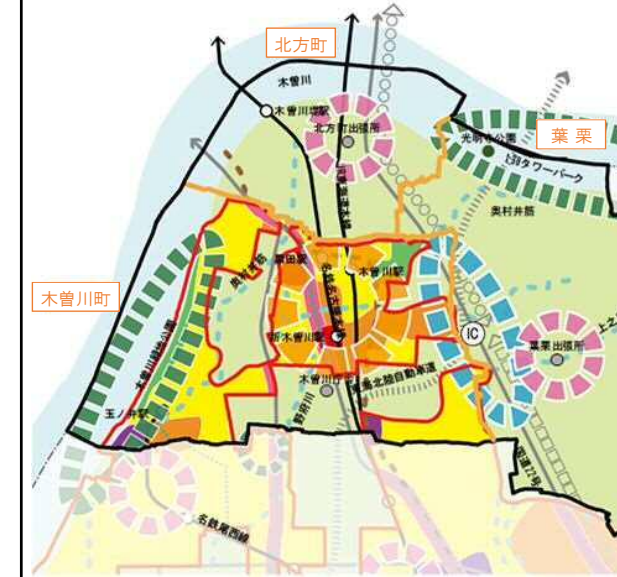
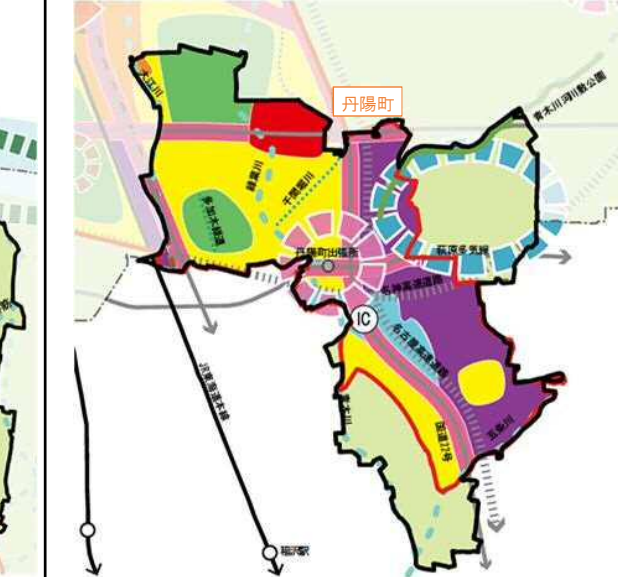
(5)環境形成の方針

- 安全で快適な生活環境の保全や豊かな自然環境の保全を図ります。
- 環境負荷の少ない持続可能な都市の形成を図ります。

一宮市都市計画に関する基本的な方針(一宮市都市計画マスタープラン) - 概要版 -

第3章 地域別構想

都市の生い立ち(市町村合併などの経緯)や市街地の形成過程など、その地域が形成されるに至った歴史的な背景を重視し、14に区分します。さらに、拠点の位置づけや居住地の特性、公共交通を中心とした地域間の連携などを考慮し7つの地域にまとめます。

	地域1：本庁(宮西・貴船・神山・大志・向山・富士)	地域2：尾西北部(起・小信中島・三条・開明) 尾西南部(大徳・朝日)	地域3：葉栗・北方町・木曾川町	地域4：丹陽町	
まちづくりの方向性	一宮駅を核として、尾張地域の中核都市である本市の「顔」となる賑わいあふれるまちづくりを進めていきます。	尾西庁舎周辺は、都市機能の集積と公共交通の充実に資する一方、歴史あるまちなみや南部に広がる田園地帯は、本地域の活かすべき資源としてとらえ、保全を進めていきます。	木曾川駅周辺は、木曾川の自然環境・眺望景観の魅力や、鉄道を主とする公共交通の利便性を活かした、北部地域の拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	土地区画整理事業による都市基盤が整った居住環境を活かすとともに、バス交通による公共交通の利便性を確保し、暮らしやすいまちづくりを進めていきます。	
地域別構想図					
まちづくりの方針	土地利用・市街地整備の方針	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点周辺における商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積 低層階に商業機能、中高層階に業務機能や居住機能を持った複合施設の立地を誘導 	<ul style="list-style-type: none"> 【尾西北部】 尾西庁舎周辺地区における商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積 【尾西南部】 尾西南部公民館周辺地区における地域の交流・憩いの場としての都市機能の維持・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 【葉栗・北方町】 出張所周辺地区における地域の交流・憩いの場としての都市機能の維持・充実 【木曾川町】 木曾川駅周辺地区における商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積 	<ul style="list-style-type: none"> 出張所周辺地区における商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積 一宮インターチェンジ東周辺地区における農業環境と共存した産業施設や地域の活性化に資する観光交流施設の立地を誘導 外崎地区における土地区画整理事業による面的基盤整備
	道路・公共交通などの方針	<ul style="list-style-type: none"> 一宮市自転車ネットワーク計画に基づく自転車専用通行帯の整備 放射型公共交通ネットワークの維持・充実 景観に配慮した銀座通りの再整備 北尾張中央道、国道22号及び一宮各務原線の無電柱化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 【尾西北部】 北尾張中央道の整備促進 起街道をはじめとした路線バス・コミュニティバスの維持 【尾西南部】 北尾張中央道、萩原祐久線の整備促進 路線バス・コミュニティバスの維持 	<ul style="list-style-type: none"> 【葉栗】 路線バス・コミュニティバスの維持 【北方町】 イベントと連携した木曾川堤駅の利用促進 コミュニティバスの維持 【木曾川町】 今伊勢北方線の整備 路線バス・コミュニティバスの維持 	<ul style="list-style-type: none"> 萩原多気線の整備促進 一宮市自転車ネットワーク計画に基づく自転車専用通行帯の整備 路線バスの維持 公共交通機関の充実・利便性の向上の検討 国道22号の無電柱化の推進
	緑・景観・環境の方針	<ul style="list-style-type: none"> 銀座通り沿線におけるオープンスペースなどのゆとりある空間づくり、緑化の推進 市民や地域との協働による真清田神社周辺における緑・歴史・文化的な資源の有効活用 既存公園のリニューアルや施設の更新 	<ul style="list-style-type: none"> 【尾西北部・尾西南部】 ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用 【尾西北部】 美濃路の歴史的なまちなみの保全 【尾西南部】 富田山公園の民間活力を活かした再整備 木曾川沿線におけるサイクリングロードの整備 田園地域の広がりある農業景観の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 【葉栗・北方町・木曾川町】 ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用 【葉栗・北方町】 田園地域の広がりある農業景観の保全 【木曾川町】 木曾川沿線におけるサイクリングロードの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 島畑の保全・活用の検討 土地区画整理事業による公園・緑地の整備
	都市防災の方針	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の耐震化・不燃化やオープンスペースの確保 面的未整備地区における狭あい道路の解消の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 【尾西北部】 木曾川の堤防整備の促進 建築物の耐震化・不燃化やオープンスペースの確保 【尾西南部】 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 【葉栗・北方町】 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全 【木曾川町】 浸水リスク低減のための日光川2号放水路の整備促進 建築物の耐震化・不燃化やオープンスペースの確保 面的未整備地区における狭あい道路の解消の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 千間堀川の河川改修 貯留施設の整備

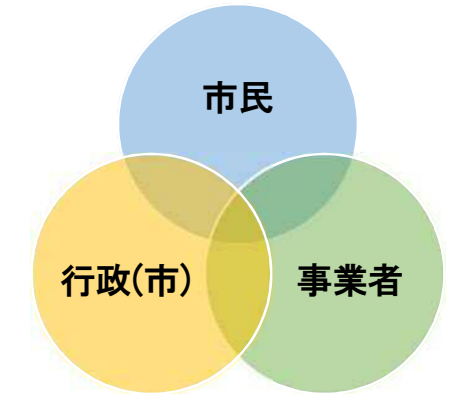
一宮市都市計画に関する基本的な方針(一宮市都市計画マスタープラン) - 概要版 -

第3章 地域別構想

第4章 計画の推進方策

	地域5：今伊勢町・奥町	地域6大和町・萩原町	地域7：西成・浅井町・千秋町
まちづくりの方向性	都市拠点との近接性や鉄道の利便性を活かし、より暮らしやすく、生活の安全性が確保されるまちづくりを進めていきます。	鉄道の利便性を活かした居住環境の形成と、田園環境や萩原商店街(美濃路萩原宿)、妙興寺といった歴史・文化が共存するまちづくりを進めていきます。	古くからの集落と河川・水路や農地が共生する地域であることから、地域生活拠点を核とした、のどかで生活利便性が高いまちづくりを進めていきます。
地域別構想図			
まちづくりの方針	土地利用・市街地整備の方針 【今伊勢町・奥町】 ・出張所周辺地区における商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積	【大和町】 ・出張所周辺地区における商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積 【萩原町】 ・出張所周辺地区における地域の交流・憩いの場としての都市機能の維持・充実	【西成・浅井町・千秋町】 ・出張所周辺地区における地域の交流・憩いの場としての都市機能の維持・充実
	道路・公共交通などの方針 【今伊勢町】 ・福塚線の整備 ・路線バス・コミュニティバスの維持 ・一宮市自転車ネットワーク計画に基づく自転車専用通行帯の整備 【奥町】 ・コミュニティバスの維持	【大和町】 ・名鉄尾西線の高架化による踏切の除去 ・鉄道駅(観音寺駅・苅安賀駅)における駅前広場の整備 ・一宮市自転車ネットワーク計画に基づく自転車専用通行帯の整備 ・路線バス・コミュニティバスの維持 【萩原町】 ・北尾張中央道の整備促進 ・コミュニティバスの維持	【西成・浅井町・千秋町】 ・路線バス・コミュニティバスの維持 【西成】 ・今伊勢三ツ井線の整備促進 ・北尾張中央道及び国道22号の無電柱化の推進 【千秋町】 ・名古屋江南線や一宮春日井線の整備促進 ・北尾張中央道の無電柱化の推進
	緑・景観・環境の方針 【今伊勢町】 ・のこぎり屋根などの特徴ある建築物、また岐阜街道に沿って残された古い民家などの景観保全と有効活用の検討 【奥町】 ・ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用	【大和町・萩原町】 ・田園地域の広がりのある農業景観の保全 【大和町】 ・妙興寺とその社寺林の貴重な緑・景観・歴史資源の保全 【萩原町】 ・萩原商店街(美濃路萩原宿)の歴史的なまちなみの保全	【西成・浅井町・千秋町】 ・田園地域の広がりのある農業景観の保全 【西成】 ・一宮地域文化広場の活用 【浅井町】 ・ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用
	都市防災の方針 【今伊勢町・奥町】 ・貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全 【今伊勢町】 ・面的未整備地区における狭あい道路の解消の検討 【奥町】 ・川崎川の河川改修	【大和町・萩原町】 ・貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全 【大和町】 ・貯留施設の整備 【萩原町】 ・導水路の整備	【西成・浅井町・千秋町】 ・貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全 【西成・千秋町】 ・貯留施設の整備 【浅井町】 ・排水機場の改修

【推進体制】



【市民や市民団体などの役割】

市民や市民団体(自治会、ボランティア団体、NPOなど)は、まちづくりに様々な形で参画し、地域の魅力を高めていくことが望まれます。

【行政(市)の役割】

市は、市民や事業者などとの協働によるまちづくりに向け、行政主体による取組みの推進のみならず、市民や事業者が主体となった取組への支援やまちづくりに関する情報発信などに努めるとともに、国や県などの関連機関も含めた連携体制の構築を図ります。

【民間企業などの事業者の役割】

民間企業等の事業者は、各企業の特徴を活かした地域への貢献が望まれます。

【進捗管理】

本計画の推進にあたっては、PDCAサイクルによる評価を行いながら、必要に応じて見直し・改定を図ります。

年次	令和2年(2020年)	令和12年(2030年)	令和22年(2040年)
一宮市都市計画マスタープラン	★ 計画改定	★ 計画改定(予定)	★ 計画改定(予定)
参考：上位関連計画			
一宮市総合計画	H30 策定 ★ 第7次基本構想 前期5年 後期5年	R10 策定 ★ 第8次基本構想 前期5年 後期5年	R20 策定 ★ 第9次基本構想 前期5年 後期5年